

第8回を開催、めざすべきまちの姿・目標や活動の場づくりをより具体的に話し合いました！！

雑賀崎・田野・和歌浦地区の景観まちづくりをどのように進めていくか、について話し合う景観まちづくりワークショップの第8回を、7月7日（土）に双子島荘で開催しました。

今回は第6回に引き続き、「まちの姿や目標について考えるグループ」と「活動の場づくりを考えるグループ」に分かれて、それぞれより具体的に掘り下げていきました。



ワークショップのプログラム等の説明

はじめに、都市整備課の中西課長からあいさつを行いました。

- ・先日、鞆の浦の埋め立てについて撤回するというニュースがありました。そういう景観が大事にされる時代になったと改めて感じた出来事でした。同時に、景観は一度壊すと取り戻せないものであり、景観の考え方を地域で共有しておく、ルールを定めておくことは大事だと感じました。
- ・ワークショップはあと2回で最終となり、これをもとに市で景観計画に基づく景観重点地区指定に向けてルール案をまとめていくこととしています。言い忘れがないか、誤解を招く内容がないか、といった目で、意見交換をして頂ければと思います。
- ・また、和歌山城周辺景観重点地区は、城の周辺で住民も少なかったことから市で主導して指定しました。一方、先日視察に行った黒江では、自分たちでルールを決めて、自分たちで使っていく、運用していく形でした。要は、誰がこのルールを担っていくのか、おそらく城周辺と黒江の間くらいがイメージしやすいかなと思いますが、これについても、議論を深めて頂ければありがたいです。

続いて、事務局よりこれまで出た意見を整理してまとめた資料について、説明がありました。グループは第6回に引き続き2つに分かれ、一部参加者の移動がありました。

ワークショップの全体コーディネーターの下村 泰彦先生からお話を頂きました。

- ・次回のワークショップで、いったん一区切りがっこうとしていますが、取りまとめた上で、それ以降、どうつなげていくのか、が重要になります。
- ・現状がすごくいいという景観を守る仕組みができれば、その次の景観へのアプローチの仕方をみんなで考えて行ければいいなと思います。

- ・誰がやるのかが明確になれば、おのずと具体的な取り組みもスタートできるものです。これで流れが終わってしまわないよう、次につながる話ができればいいですね。

ワークショップ

参加者が2つの班に分かれて、それぞれのグループ毎に話し合いました。

「まちの姿や目標を考えるグループ」：A班

大道さん、唐門さん、池田さん、山野さん、松本さん、前田さん、松川さん、中井さん
(中西さん、西山さん、前田さん)

前々回は田野・雑賀崎地区のまちの姿・目標について話したので、今回はまず和歌浦・新和歌浦地区のまちの姿・目標について話し合いました。その上で、あるべきルールの内容、それを策定した後、どう運営していくのか、についても話しました。

●市町川沿い・あしべ通り沿い（御手洗池から不老橋まで）

（主な意見）

- ・見どころをつなぐ重要な道なので、歩きたくなるみちになってほしい。観光地にならなくても、訪れる人に親切なみちにしたい。
- ・歩いて楽しいのは、例えばおしゃれなカフェが沿道に連なるイメージなど。
- ・現在は、車が多く通るし、木陰がないので歩いていてしんどくなることがある。
- ・松並木が風情がある。
- ・市町川南側の道の方が、広々しているし日陰もあるので、快適。ただし途中で道が切れてしまう。

（ルールづくりに向けて）

- ・市町川沿いは和歌の浦の見どころをつなぐ大切な道なので、沿道の一皮だけでも一定のルールを決めて、面する建物でまちなみをつくっていくのがいいのではないか。

●市町川の南側エリア

（主な意見）

- ・明治以降に埋め立てられた、比較的新しい住宅地。建築の年代が揃っているので、景観もまとまっている。
- ・奠供山の上から見ると、海の水平線を分断するような高さの建物もあり、眺望を阻害しているようだ。
- ・天満宮からの眺めも素晴らしいので、眺望点として意識すべき。
- ・眺望点付近では、自生する松などの樹木が大きくなってきて眺望を阻害していることがある。一定の管理も必要か。

（ルールづくりに向けて）

- ・奠供山や妹背山からの「見下ろす」眺望を意識して、高さや屋根の色についてルールが必要。

●市町川の北側エリア

（主な意見）

- ・古い建物や興味深い建物が点在している。資源として掘り起こしていくと、地域の魅力アップに

つながると思う。

- ・ただ歩くだけでなく、案内人などがいて地域の歴史や背景を交えて説明してくれた方が魅力が伝わりやすい。ちょうど前回訪問した黒江の方がしてくださったイメージ。

(ルールづくりに向けて)

- ・特にルールは定めなくても、魅力的な景観を発見する活動からアプローチするべき。

●新和歌浦地区

(主な意見)

- ・県の景観支障物件条例ができてから、廃業した旅館などで動きがある模様。
- ・またそれとは別に、海への眺望を活かして高級住宅に建て替わっているところもある。
- ・「変な建物を建てたりしないで」という注意を促す程度でいいのではないか。

(ルールづくりに向けて)

- ・迷惑になる用途が入ってきたり景観を阻害するような建物が建築されないようなルールがあれば良いのでは。

●田野・雑賀崎地区

(主な意見)

- ・岬などの、重要な眺望点からの景観は守っていく必要がある。
- ・上から「見下ろす」景観の眺望点は、県道に集中する。家なみ、港、海がワンセットになった景観。
- ・下から「見上げる」景観の眺望点は、港や海上からになる。
- ・田野地区から北の西浜に抜ける踏み分け道が存在する。「潮騒の小径」という。

(ルールづくりに向けて)

- ・岬などの重要な眺望点からの景観はきちりと守る。
- ・その上で、「県道から見える海への眺望を大切にするような家の建て方をしましょう」という配慮を促すルールがいいのではないか。

●ルール運用のための仕組み

- ・神戸の魚崎のような、運用のための委員会を設け、地域内の建築行為に対して要望するような仕組みはあってもいいかもしれない。
- ・会を設けるなら資金も必要になるので、併せて考える必要がある。

●その他

- ・やはり地域の暮らしが大事であり、関心事としては安全・安心である。景観からのアプローチではそうしたところの解決には至らないかもしれないが、何らかの形でつながってほしいという思いはある。
- ・クリーンアップ活動は輪が広がりつつあり、ゴミのない美しいまちになっている。しかしそれでも気になるのがポイ捨てである。
- ・ポイ捨てに対しては、市が条例をつくって、というアイデアも出されたが、地域住民が「宣言」(憲章のようなもの)をつくった方が、より効果的な対策になると思われる。

「活動の場づくりについて考えるグループ」：B班

林さん、土山さん、堀畑さん、中口さん、松井さん、宮下さん、赤土さん
(小嶋さん、中野さん、前田さん)

ワークショップで皆さんの意見を聞く前に、前回までの話の中で色々な人の活動をつなげるプラットフォームのようなものが必要だということで、プラットフォームとはどのようなものか、事例を含め説明をし、イメージを共有しました。

●和歌の浦地区でプラットフォームを設ける上での課題

- ・理想的であるのは分かるが、これまでの経緯を考えると難しい。
- ・例えば、住民、漁業関係者、NPO や地域外の人など、それぞれの主体の思いが違う。これまでも何度か、そういう人達と一緒にまちづくりをしようという動きもあったが、結果として上手くいかなかった。
- ・また、結局は声の大きい人の意見が通り、自分たちの意見が通らないとわかると集まらなくなっていく気がする。
- ・必要性は十分に理解できるのだが、これまでの失敗経験のため現実的な気がしない。
- ・しかし、このワークショップは地域の人が意見交換を行う良い機会であった。出来れば今後も井戸端会議や情報交換の場として継続して、いずれはプラットフォームのような形になっていけば・・・という思いもある。
- ・その結果、和歌の浦のファンが集まるような場にもなれば良い。

(主な質疑応答)

- ・例えば、行政は支援してくれるのか？
⇒いきなり、地域の方々だけでというのは難しいと思うので、当面は行政側もサポートをする。例えば、場所などは支所等で開催することも考えられる。
- ・(資料中に)自治会、住民と書いてあるが、自治会と住民は違うのか。
⇒自治会で活動してきた方だけでなく、いままでまちづくりに関わってこなかったけど、興味があるといった住民の方々も自由に参加できるような場を目指すということを意識している。
- ・去年まで万葉館にインフォメーションセンターがあった。ああいった情報発信拠点を活用できれば良いのではないか。
⇒あのインフォメーションセンターは緊急雇用事業で行われていたため継続性がなかった。本来は、地域のNPO等に委託し、緊急雇用事業が終わっても継続できるような形に持っていければ理想的であった。

●地域が主体となった取り組みについて

- ・親子で遊べる場があればいいなと思う。そうすると若い人達がもっとこの地域に足を運ぶことにつながる。
- ・漁業のブランド化といった意見もある。しかし、当事者(漁業関係者)がこの場にいらないことの難しさを感じずにはいられない。どうやって当事者をその気にさせるかの方が重要。
- ・これまで出てきた意見は総じて観光の視点からのもの。しかし、漁業のブランド化もそうだが当事者が今回のワークショップに参加していないことが非常に残念。彼等が本気になって、ここに

出ているアイデアをどう実現するかを考えなければならないのではないか。

- ・ これまでは、「光(風景)を観(み)るカンコウ(観光)」であったが、これからは「幸福を感じるカンコウ(感幸)」を考えなければいけない。それがすなわち生活者の視点であり、生活者がこの地で満足する、幸せを感じることができなければ魅力的な地域にはなり得ない。
- ・ また、「交流を歓喜するカンコウ(歓交)」という視点もあるかもしれない。

以上のような意見を踏まえ、これまではやや「観光」という視点に偏りがちであったので、今回は、「生活者の視点からこの地域で何をやる必要があるか」という点で少し意見交換を行い、最終のとりまとめを行うこととしました。

下村先生によるコメント

下村先生から最終回に向けてコメントを頂きました。

- ・ 和歌山市が景観条例をつくられて、城の周辺が景観形成地区に指定されました。そして、和歌の浦も大切なところだということで、今回のワークショップが始まりました。この地域を大事だと思っておられる方、今までも活動してこられた方、そのような方に集まっていただいて、ここまで色々と意見がでてまいりました。
- ・ 次回でまとめということですが、これで終わりではなくて、みんなでさあこれからやりましょうか、「ヨーイ・ドン」ができるか、という状況に来ていると思います。じゃあ一体誰が「ヨーイ・ドン」できるのか、というところです。何か次の動きへとつなげていければ良いなと感じました。

次回内容の決定

次回を最終回として開催することとし、7/21(土)の14:00～、和歌山市勤労者総合センターで行います。

前半は意見交換の続きと取りまとめをして、後半はこれまで話し合った結果を発表し、全体で共有します。できれば、皆さん一人ひとりからの思い、感想を頂く機会も設けたいと考えています。

次回もよろしくお願いいたします。

●事務局・問い合わせ先

和歌山市 まちづくり局 都市計画部 都市整備課

〒640-8511 和歌山市七番丁23番地

Tel: 073-435-1082 Fax: 073-435-1367 E-mail: toshiseibi@city.wakayama.lg.jp